

令和3年度第1回 国土交通省大阪航空局 総合評価等に関する委員会  
審議概要

開催日及び場所	令和3年5月27日（木）オンライン開催（大阪航空局会議室ほか）
委員	委員長 古阪 秀三（立命館大学客員教授） 委員 鎌田 敏郎（大阪大学大学院工学研究科教授） 委員 倉本 宜史（京都産業大学経済学部准教授）
内容	審議事項：  市場化テスト実施状況  ・ 空港土木施設維持修繕工事（終了プロセス）  ・ 電気設備保全業務（終了プロセス）  ・ 有害鳥類防除業務請負  報告事項  ・ 令和2年度総合評価方式等の実施状況
委員からの 意見・質問	意見・質問
	別紙【議事要旨】のとおり
委員会による具 申内容	審議内容を了承

【議事要旨】委員からの主な意見・質問

審議事項：市場化テスト実施状況

・空港土木施設維持修繕工事（終了プロセス）

（質問）滑走路・誘導路・エプロンの補修箇所数で、6つの空港で補修箇所の数そのものが少ないところと多いところがあったり、あと平成31年度にやった数と比べると令和2年度に増えていたり逆に減っていたりとはらつきがあるが、この差は何によっているのか。

（回答）各空港の施設の供用年数、路面評価等によって設定した維持管理・更新計画書の点検頻度に基づき点検が実施され、その時に発見された舗装の不具合を補修しているものである。また、対応した補修についても一定の水準が保たれている。

（質問）一者入札に関連して、元々その地域に参入できる会社というのは何社くらいあって、その結果一者入札となったという母数になる数について如何。

（回答）入札参加者の拡大を目的とし地域及び舗装等級を定めておらず、競争参加資格のある120者程度が母数になります。

・電気設備保全業務（終了プロセス）

（質問）市場化テスト導入前と比して、中部国際空港、大阪国際空港のそれぞれについて業者の入れ替わりはあったのか。

（回答）中部国際空港においては入れ替わりがございました。

・有害鳥類防除業務請負

（質問）鳥衝突率の目標値を設定されていて、過去5年間で云々というのがあるが、平成31年度も2空港で、令和2年は那覇空港で超えてしまっているけれども最終的には問題が無くて適切だという論旨だと思うが、本当に問題ないのか。

（回答）単年度だけを見ると確かに超えているのは事実ですが、過去5年においても上下と推移している実態であり、3年目の令和3年度も含めて平均化すると概ね収まっていくものと考えており、問題ないとしております。

（質問）「空港鳥衝突防止連絡協議会」というのは、どういう組織なのか。

（回答）協議会は空港毎に、国管理空港の場合は、管制官、運航情報官、航空会社などに参加いただいた上で、危険であった事例、鳥衝突の状況等を情報共有し空港全体で連携しながらより有効な鳥衝突防止の対策を練るなど取り組みを実施している次第です。

(総括) 入札方式を総合評価の施工能力評価型や、最低価格落札方式に見直すなど変わっていく事もあってしかるべきだと思う。そういう点でも、情報公開は重要だと思う。その中でいろんな問題が起こっても、そういうことが一般に共通に理解できて次の対策が練れるということが非常に重要であることからよろしくお願ひしたい。

以 上